

# 大学 FREE ジャーナル

vol.141 2月号  
第26巻1号・通巻141号

発行所:くらむぼん出版 〒531-0071 大阪市北区中津1-14-2  
TEL06(6372)5372 FAX06(6372)5374  
E-mail KYA01311@nifty.com

大学ジャーナル  
UNIVERSITY JOURNAL  
ONLINE  
http://univ-journal.jp



## Highlight

### 03 デキル! 学科

静岡理科大学理工学部土木工学科  
(2022年4月設置構想中)  
**2022年、静岡に  
初の土木工学科(仮称)を設置**



### 04 トピックス 来るか? 大学DX 大学生活のすべてがオンラインで完結 「ネットの大学 managara」 いよいよ開設

連載 16歳からの大学論  
「問い」の哲学  
京都大学准教授  
宮野公樹 先生  
読者プレゼントあり!



### 05 特別寄稿 あなたの眼は大丈夫? 教育DX時代を生き抜くために 桃山学院大学名誉教授 高橋ひとみ先生

DX...デジタルトランスフォーメーション  
連載 雑賀恵子の書評  
『人新世の「資本論」』  
斎藤幸平 集英社文庫

### 06 大学ジャーナルオンラインから

### 08 シリーズ 大学が地域の核になる 京都文教大学の挑戦 オンライン企業見学会を軸に、 新しい地域、企業とのつながりを コロナ禍の中の1年を振り返る



## 同時発行 別冊

本誌も別冊も、  
ご希望に応じて無料で  
お届けしています。



企画・広告のお問い合わせは

UNIVERSCAPE  
ユニバースケープ(株)  
info@universcape.co.jp まで

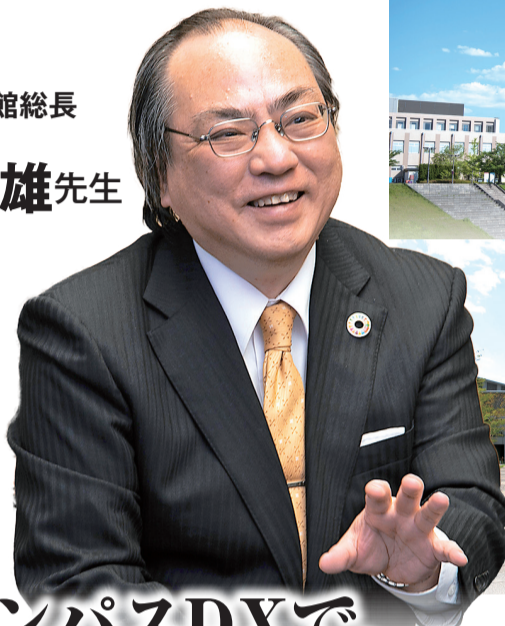
## 大学トップから高校生へのメッセージ ポストコロナへ向けて

学園創始150年、創立120年を迎えた立命館大学。建学の精神は「自由と清新」、教学理念を「平和と民主主義」とする。昨秋には、2030年を見据えた中期計画「学園ビジョンR2030チャレンジ・デザイン」を策定。人類に共通する社会課題の解決に向け、社会共生価値の創造とイノベーションに取り組む「次世代研究大学」を目指している。一昨年学長に就任した立命館大学情報理工学部の仲谷善雄先生は、大学で心理学を学び、就職した民間企業では人工知能の研究やSEを経験。大学教員となつてからは学部長、そして学長へとキャリアを積み重ねてこられました。仲谷先生に、ポストコロナにおける大学の在り方、これからの立命館の挑戦についてお聞きしました。

### 学校法人立命館総長 立命館大学長 仲谷 善雄先生

#### Profile

1958年大阪府生まれ。1981年大阪大学人間科学部卒業。1989年神戸大学で学術博士を取得。2004年より立命館大学情報理工学部教授。情報理工学部副学部長、総合科学技術研究機構長、情報理工学部長、学校法人立命館副総長・立命館大学副学長等を歴任し、2019年より現職。専門分野は、防災情報システム、人工知能、認知工学など。



## 立命館キャンパスDXで、 「誰もが、いつでもどこでも学び、学び合える」 キャンパスに

### 大学とは

大学とは知的創造活動の場であり、知的な刺激を社会に与え続けることでその諸課題の解決に資する存在だと思います。もちろん直接資することを目的とする工学から、結果として資するような、たとえば哲学のようなものまで分野は多岐に亘ります。いずれにせよ重要なのは、それぞれの立場で、いかに社会と向き合い、知的創造活動に学生を巻き込んでいくかが重要だと思います。

2018年、立命館は、「学園ビジョンR2030 挑戦をもっと自由に Challenge your mind Change our future」を策定しました。これは先を見通すことが困難な時代だからこそ、私たちは挑戦していくのだという勇気と決断を宣言したものです。さらに、学園ビジョンR2030に基づき大学としてのチャレンジ・デザインを昨年11月に策定し、本学としては以下の二つを重視しています。

一つは世界で認められる次世代研究大学を目指すというものです。研究は広い意味では探求とも表しますが、大学院が研究力で全体を引っ張り、その刺激を受けて学部教育では探求力を高めたい。もう一つはそれを社会課題の解決にいかすなど、実践を通じて、社会の変革、あるいはイノベーションの創出に寄与することです。建学の精神にいう《清新》とは、《新たに作る》の意でイ

ノベーションとも言い換えられる。創造とイノベーションの精神で、社会を変えていく人材を育成する学園でありたい。

学園全体では、小学校、4つの附属高校すべてで、探究力を育成するための取組を続けてきています。附属高校では、すべてSSH(スーパーサイエンスハイスクール)か、SGH(スーパーグローバルハイスクール)の、どちらかまたは両方に選ばれています。SGH事業終了後は、立命館宇治高校が「WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業」の拠点校に選ばれています。国際的なレベルで探求心を鍛えた附属校の生徒を受け入れるためにも、大学は彼らの探求心に応えられるようにしなければなりません。教員が研究力を一層高め、成果を出せば、それを見て海外から優秀な若手研究者や留学生がきてくれるという好循環も生まれると思います。

### RIMIX

#### 総長ピッチ

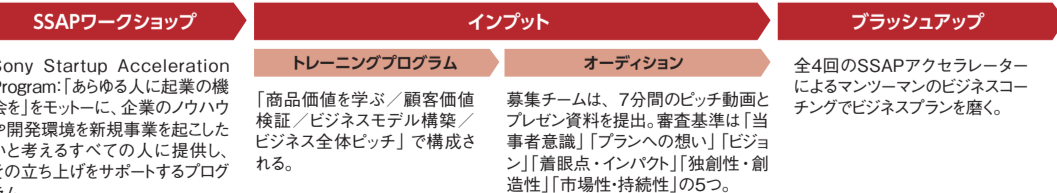
その一つが、RIMIX(Ritsumeikan Impact-Makers InterX(Cross)platform)です。立命館アジア太平洋大学(APU)、附属校も巻き込んで、「社会課題解決に貢献する人材・マインド養成から起業支援までの取組を一つのプラットフォームとして《見え



る化」し、学園内外との連携の下、学生・生徒・児童への支援の拡充を図る」ことを目的に、2019年12月にスタートしました。「SDGsに代表される人類共通の課題に対する問題意識、そこから生まれるチャレンジ精神を起点に、挑戦から起業までをシームレスに支援し、初等・中等教育段階から社会課題を積極的に解決する人材、《社会起業家: Impact-Makers》の養成を目指す」。ソニー株式会社を始めとする民間企業と連携し、各社のノウハウ・資源を活かしてダイナミックな展開を図ります。

その象徴ともいべきプロジェクトが、先頃2年目を終えた「総長PITCH CHALLENGE」(以下総長ピッチ)。「ワークショップ」、「インプット」、「ブラッシュアップ」の3つの段階からなり、半年をかけて行います。学園の学生・生徒・児童がチームで考案したプロジェクトをビジネスレベルまでブラッシュアップし、最終的に選ばれたチームが総長へピッチ(投資家などに対して短時間で行うプレゼンテーション)します。

6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月



総長PITCH THE FINAL 2020  
オーディションで採択された6チームとオーディエンス採点で選ばれた1チームが参加。

「総長PITCH THE FINAL」[写真]では、1チーム5分間のピッチと3分間の審査員との質疑応答で「総長賞」「SSAP賞」に加え「オーディション賞」を決定。入賞者は各賞に応じた、オーダーメイド研修などの特典と、アクセラレーターによる個別フォローアップが受けられます。すでに昨年の入賞者からは、事業展開を進めているチームも生まれています。

初年度から学園内の反響は大きく、大学ではキャンパスやサークル単位など学部を越えたチームも目立ちます。何気ない会話から生まれた面白いアイデアを、「総長ピッチ」にぶつけてみようというグループもあります。運営等にご協力いただいているソニースタートアップアクセラレーションプログラム(SSAP)も、「とにかくビジネスでも通用するレベルにまで持っていきたい」と本気で応援してくれていますし、卒業生が後輩のサポートを行い、参加意欲を高めるなど、エコシステムが生まれ、ますます裾野が広がるのではないかと期待しています。

プロジェクトの目的は、社会課題に関心を持ち、その解決を図るためのアイデアを出し合い、実現可能な計画に落とし込むことを励ますことで、それに優劣をつけることはありません。終了後もそれぞれの立場、思いで問題意識を大きく育て、アントレプレナーシップ(起業家精神)に目覚め、将来、起業する、あるいは企業に入ってその中で新しいプロジェクトを立ち上げるような、いわゆるイントレプレナーを目指すきっかけになってほしいです。社会起業である以上、利潤追求だけが目的でもありませんから、NPOの活動でも構わない。また働き方の複雑化が推奨されていますから、正社員になり副業に関心を持ってもらうのもいいかもしれません。

#### 他にも様々な活動を支援、見える化

みなさんは、SDGsに代表されるさまざまな社会課題に関心があると思います。SDGsは、環境・貧困・紛争・教育・食糧など、持続可能な社会を実現するために私たちが取り組むべき課題を提示しています。持続可能な未来に向けて、私たちがさまざまな課題に対して主体的にチャレンジすることが問われているのです。本学では2016年、国連がSDGsを掲げた翌年の夏、学生主体でSDGsの17の達成目標に向けて課題解決に取り組むSustainable Week実行委員会[コラム]という学生団体が発足。地域住民の方々や企業、自治体などを巻き込み持続可能な活動をしています。彼らの活動を支援するのも、広い意味でのRIMIXの役割です。

RIMIXの活動の一つである「Beyond COVID-19」は、コロナ禍でリアルな活動が制

限される中でも、「何か行動を起こしたい」という学生の声をもとに、オンラインコミュニティスペースを整えたのが始まりです。立命館学園の学生・生徒・児童・教職員がプロジェクトを立ち上げ仲間を集うことができ、80以上のプロジェクトが発足しています。

自分たちが全力を出せるような機会、信頼できる場を提供すれば、学生や高校生が積極的に参加してくれるのを見て、そもそもわれわれはこれまで、教えることに重きを置き過ぎてきたのかもしれないとも思っています。これでは、学生、生徒は教える者を越えられない。乗り越えてもらうには、自分たちで主体性を持って取り組める環境が不可欠。われわれの役割はきっかけ作りであり、共に成長していくという姿勢で彼らに寄り添い、適切なアドバイスをしたり、学外とのコーディネートをサポートしたりすることが重要ではないかと思っています。

元々本学には、学生同士が学び合い、教える合うピアラーニングの文化があります。ここからは優れた活動がたくさん生まれてきていて、本学の強みの一つになっていると思います。今回の総長ピッチも、チームとしての参加を促すという意味ではその伝統を受け継ぐものですし、新しい時代のニーズがますます複雑化する中、各々が得意分野で課題を発見し、連携して取り組むことは、研究面でもとても重要だと思っています。

#### 今後の課題

裾野をさらに広げること。本学は約35,000人の学生が学ぶ私立総合大学であり、RIMIXには問題意識の高い学生が集まっています。大学全体を見ると、その中にはSDGsを知らずに入学してくる者もいます。学生全員に社会課題に向き合ってもらいたいというのむずかしいかもしれませんが、少なくともその重要性についての認識は共有してもらいたい。

そのためにも《知の見える化》、学園内で行われている知的創造活動については、学内外を問わずとにかくアピールすることがますます重要になってきます。誰が、いつ、どこで、どんな事を行っているかが分からなければ賛同しようもないし、関心の持ちようもないからです。

## 世界の大学と競うために、大学版DXにも挑戦

2020年は、「大学とは何か」ということをこれほど突きつけられたことはなかったと思います。先の見通せない状況が、ある日突然、世界的規模で起こることが現実として突き付けられました。私たちが解決しなければならない社会課題は、ますます複雑化し、これまでの方法では解決が難しくなっています。このような状況において、立命館の使命は、「地球市民として活躍できる人間の育成に努める」と立命館憲章に定めるとおり、時代と社会に真摯に向き合い、挑戦していく人材の育成にあると考えます。

本学は4月からは、感染症対策を講じてキャンパスを全面的に開放し、対面をベースに新しいキャンパス作りを始めます。ただ、単に以前に戻るわけではありません。この1年近くの試行錯誤を通じて、有効性の確かめられたテクノロジー技術を使って、より高度なキャンパス、「誰もが、いつでもどこでも学び、学び合えるキャンパス」を整備したいと計画しています。

一般的に、授業をリアルかオンラインかの二項対立で捉える風潮があるのは事実ですが、

#### 総長PITCH THE FINAL 2020出場チームのテーマ

出場チーム	プラン名	概要
ABABA (立命館大学) 総長賞 オーディン賞	お祈りメールを推薦に	自社で採用できなかった学生を企業間で推薦し合うプラットフォーム
Bounty (立命館大学大学院)	無駄なきプログラミングスキルシェアサービス Bounty	知りたいことを「知りたい分だけ」探せるスキルシェアサービス
FOOD BASE JAPAN (立命館大学)	COQUEST (クックエスト)	「もっとおいしく」を探求する料理知識共有サービス
KAKITSUBATA (立命館アジア太平洋大学)	全ての人が着られる下着	下着を通して性別が多岐であることがあたりまえの世界を実現する
konoki (立命館アジア太平洋大学) SSAP賞	konoki 木の幹からつくるお茶	お茶で解決する、日本の森問題
P.S (立命館守山高等学校)	TOTB (トープ)	飲食店における除去食・代用食のレベル分けの提案
ものがたり喫茶 (立命館アジア太平洋大学)	物語珈琲 PAY IT FORWARDを通して 思いやりの循環する社会を創る	人から人へ感謝の物語を紡ぐ珈琲とお手紙のセット

この間、多くの大学ではオンライン教育の良さについても再確認してきました。事情があってキャンパスへ来ることのできない学生も、オンラインなら学べます。オンデマンド配信が充実すれば、受講した対面授業を何度でも復習できます。教える側も、他の教員がオープンにしている教材を参考に、自分の教え方を見直すこともできる。こうしたオンラインの良さをリアルと組み合わせた新しい学び方、学びのスタイル、あるいはこのような新しい教育の場、枠組みの提供を、われわれは立命館版のキャンパスDXと称し、4月以降、積極的に展開していきたいと考えています。

冒頭、大学とは知的創造活動の場だとお話しましたが、今後、国内、さらには海外の大学との激烈な競争が予想される中、それに本気で取り組んでいくところだけが残っていくのではないかと考えています。世界に目をやれば、東アジアだけでなくアフリカでも、海外で学びたいという若者はますます増えています。もちろん一朝一夕にできることではないかもしれませんが、研究力、探求力をなお一層高め、社会課題の解決に挑戦する人材の育成に力を入れることで、そんな彼らにも選ばれる大学を目指したいと思っています。

## 高校生へのメッセージ

### 社会課題に敏感に。文系こそデータサイエンスの基礎、数学を

先を見通せない激動の時代と言われる今、その狭間で辛い思いをしている人たちがたくさんいます。一人の力では難しいとしても、みんな力で力を合わせて社会課題を解決していくというマインドを持ってほしいと思います。

私の専門とも関連しますが、今、話題のAI、データサイエンス、統計と言ってもいいかもしれませんが、これらについては、どんな分野を目指す人も最低限の知識、リテラシーを持つておくべきだと思います。世の中にある膨大なFACTを分析できる時代なので、やはりそれを使って、新しいこと、新しい価値を生み出していくべきだろうし、事実、誰にもそのチャンスはあると思います。文系だから数学はやらなくていいのではなく、文系だからこそやっておく。そうしないとAIもデータサイエンスもわからなくなり、ベンチャーも起こしにくいと思います。

### 意見のぶつかり合いを怖がらず、知的アドベンチャーを楽しもう。

他人と意見がぶつかり合うのを怖がらないでほしいと思います。なにも人格の否定、人格をぶつけ合うわけではないからです。人それぞれ意見は違って当たり前。同じでなければ

ならないと思うから苦しんだり、敵対したりするようになる。ではその違いをどう乗り越えればいいのか。《正反合》、いわば弁証法的に、譲歩するのではなく、両方が成り立つ方法、解を、一段上に上がったところで探す努力をしてみてください。それはきっと、新しい価値の発見につながるはず。まさにそれは、知的アドベンチャーというべきもので、世の中にこんな面白いことはないと思います。

探究心を鍛えるのは、授業だけでなく、サークル、部活でもいいと思います。自分が興味のあることをとことん追求することです。サッカーなら、PKIにこだわって、とにかく絶対外さない方法を考えたら、ドリブルの奥義を窮めるといってもいいでしょう。3年間なら3年間、主体的に一生懸命取り組んだ経験は、探究心を育て、自分に対する自信にもつながるはず。

### 挑戦をもっと自由に。その場その場で努力すれば道はおのずと開ける。

#### 少し私のエピソードも

学園ビジョンR2030では、「挑戦をもっと自由に」を掲げています。自分の心の中の気づかないボーダー、あるいは制約を明らかにして、それを乗り越えるべく挑戦しようということになります。人も社会も制約が多すぎると、硬直化してしまいます。「こうでなければいけない」「こうあるべきだ」と言い過ぎると、息苦しくなる。世の中、それほどたくさんの制約が必要な。多くは、自分たちが勝手に作っているものではないのか。それなら一度外してみる、そういうチャレンジを試みたらどうだろうか、ということ。

自分のことを少し振り返ると、大学を卒業して就職後、心理学出身者として、避難行動をモデル化したシミュレーターの開発に携わる一方、研究者の会話についていけるよう専門的知識を必死に身につけました。30代になって、米国・スタンフォード大学に研究留学し、人工知能の研究に携わりました。そんな研究と企業でのマネージャー職に従事するなかで、研究への思いと共に、「人を育てたい」という思いも募りました。ちょうどその頃、立命館大学が情報理工学部を新設。24年間の企業人生を終え、大学での教育と研究を手掛ける次のステージへの挑戦を決めました。

幾度か転身を経た経験から一つ言えるのは、その場その場で全力を傾ければ、道はおのずと開けてくるということ。違う環境に身を置けば、自分の意識も、ものの見方も変わっていくということもあります。挑戦を恐れなくていいです。

#### コラム Sustainable Week実行委員会:

Sustainable Weekは、立命館大学びわこ・くさつキャンパスで始まった。キャンパスを1万人の「小さな地球」と見立て、SDGsにおける17のゴールを目指して、啓発・解決の視点から主体的に取り組むイベント。実行委員会は、大学を核に、周辺地域を巻き込む増殖型SDGsエコシステムを創造するというVisionの下、「学生同士が連携し、社会と繋がりがながら、主体的に課題解決に取り組む次世代のSDGsリーダーになる」をMissionとする。①学生自身が、所属組織の持続可能性について深く考え、自己表現する機会の提供、②立命館大学びわこ・くさつキャンパスから社会課題解決に向け提言、③時代、社会、人の変化に対応できるサステイナブルキャンパスの実現」を理念に、SDGsに則した組織を創り、組織や考え方を柔軟に進化させながら、学生や社会、大学の在り方を持続可能な形に変化させることを目指す。

デキル!学科 静岡理科大学理工学部土木工学科 (2022年4月設置構想中)

静岡県内唯一の私立理工系総合大学として独自の歩みを続けてきた静岡理科大学。教育方針は「研究が人を育てる」。「研究力」とは「自らを研ぎすまし 学びを究め 人としての力をつける」ことであるとして、専門力と人間力を養うことで、地域の課題解決に貢献する人材を輩出してきました。静岡理科大学では、2017年の建築学科開設に続き、2022年には、理工学部土木工学科(仮称)の設置を構想しており、理工学系主要分野をすべて揃えることで、さらなる飛躍を目指しています。改革を主導される野口博学長は、建築がご専門ながら、東京大学や千葉大学では教育・研究環境の情報化を牽引されるなど、デジタルと建築、土木の融合に早くから取り組んでこられました。野口先生に、新学科開設の背景、目的、展望等をお聞きしました。



静岡理科大学 野口 博学長

Profile

昭和45年東京大学工学部建築学科 卒業、昭和51年同大学院工学研究科建築学専攻博士課程修了 工学博士、昭和51年東京大学工学部助手 建築学科、昭和52年千葉大学工学部講師 建築学科、昭和54年同助教授、平成3年1月同教授、平成16年千葉大学総合メディア基盤センター長、平成17年同工学部長、平成19年同大学院工学研究科長、平成26年4月から現職、総合技術研究所所長。一級建築士、千葉大学名誉教授。東京教育大学附属駒場高等学校(現筑波大学付属駒場高等学校)出身。

# 2022年、静岡に初の土木工学科(仮称)を設置

静岡をフィールドに、ICT(情報通信技術)との融合で、人・生活を自然災害から守る土木工学を学ぶ



デジタル革命で 土木にも技術革新の波が

私が今、襟につけているのは、静岡県による「静岡どぼくらぶ」※のバッジです。「土木love」(土木を愛する)と書かれていますが「ドボクラブ」とも読め、このバッジをつけることで、土木を愛する仲間、チーム土木の一員であることを表わしています。

大学における土木工学は、昭和30、40年代には高度成長を牽引役として人気を集めました。低成長時代には人気を失い、名称も都市基盤などと変更されるようになりました。ところが近年は、高度成長期に整備されたインフラの老朽化や、100～150年に一度と言われる南海トラフ地震、気候変動によるこれまで経験のない豪雨など、環境や状況は変わってきました。地元の高校生の間でも、巨大地震への危機感共有されており、自分たちで防災、減災に向き合うとの関心も高まっています。

一方、AI、ロボット、IoTに象徴される近年のデジタル革命は、土木工学にも技術革新をもたらしています。ドローンを使えば、人間の目では行き届きにくい場所の構造物の劣化、線路の損傷などを発見できますし、人手不足に対応する目的もあって、ロボットなどの開発も加速しています。近隣の浜松市では、足場を組まず、離れた場所からレーザーでさび落としのできる仕組みを開発するベンチャーも出てきました。測量でも、樹木があっても地形のわかるグリーンレーザーの開発も進んでいます。もちろん膨大な画像を集め、それをビッグデータとしてAIで解析する手法は、土木においても有効です。土木分野では、他分野に先んじて新しい技術の導入、活用が図られているのです。

※「土木の将来、静岡県の未来をともに考え土木の現場でつながる広いサークル(仲間)」。静岡県の土木に関わる人みんながチームの一員という意識を持ち、この仕事に誇りを持ち、胸を張って仕事をすることをサポートします。みんなの笑顔をつくり、ダイナミックな現場から土木の素敵を訴えかけるのが大切な役割です(交通基盤部政策管理局建設政策課)とある。

今、なぜ土木工学科なのか?

このような時代の変化、ニーズの高まりを背景に、本学では2022年、理工学部土木工学科の設置を構想しています。

本学が立地する静岡県は、東西に長く、海岸線と高い山々に挟まれ、大きな河川も流れ、防災は身近な課題です。東西交通の要所で、大規模災害が発生すれば、全国に影響が及びます。このことは、静岡県が防災教育にとって絶好のフィールドであることを意味しますが、これまで県内には、土木分野で防災・減災に係りたいという人材を受け入れ、養成できる教育機関がありませんでした。土木技術者だけでなく、河川監視員も港湾監視員等も、これまでは、県外教育機関に頼らなければなりません。県内の高校生を受け入れ、県内へ理工系人材を輩出することをミッションの一つに掲げてきた本学としては、土木全般をカバーする人材、技術者養成は急務であると考えたのです。

土木工学というストレートな学科名を予定しているのも、目指している教育が明確に伝わりやすいと考えたからです。今、土木を学び、技術を身につけるのは、単に歴史に残る構造物や、現代のインフラを残すためだけではありません。これからの防災・減災の在り方を考え、そのために最適な技術を身につける。あるいはスマートシティに象徴される人々の生活の質を高める都市や地域を計画したり、自然環境との融合や、安全で快適な生活環境を考慮した社会基盤整備などに求められる理論や技術を学ぶということ、予めわかって入学してきてほしいのです。

**構想概要**

- 設置学科/理工学部土木工学科(仮称)
- 開設時期/2022年4月1日開設予定
- 開設場所/静岡県袋井市豊沢2200-2
- 入学定員/50名(予定)

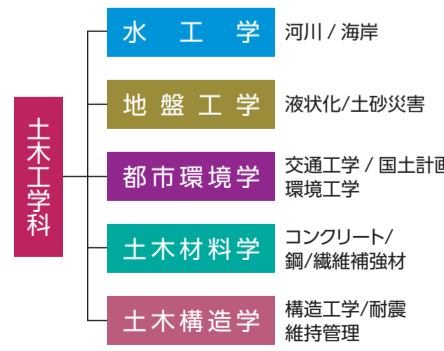
※理工学部土木工学科(仮称)は、2022年4月1日の開設を目指して設置準備を進めています。学部学科の概要等は予定であり、今後の検討の結果、本概要を変更する場合があります。

学びの特徴と卒業後の進路

新学科では、土木工学の専門分野である《水工学》、《地盤工学》、《都市環境学》、《土木材料学》、《土木構造学》を揃えます【下図】。土木工学は社会課題の解決を目指す学問・技術であり、総合工学であるという認識の下、1、2年次で専門分野それぞれの基礎を可能な限り幅広く学びます。AIやデータサイエンス、ロボットやドローンなどに関する最新のデジタル技術も積極的に取り入れ、それらを使いこなせる次世代土木技術者の養成を目指します。

加えて、静岡県をフィールドとした実践的な学びにも力を入れます。それを象徴するのが1年次から順次始まる『プロジェクト科目』。防災・減災やインフラ整備など、具体的なテーマを掲げ分野横断で学びます。座学、フィールドワーク、演習、実験、第一線で活躍する実務者の方の講義参加など、多様な学びを組み合わせます。

50名の定員に対して教員は9名。先行する他学科同様、教員一人当たりの学生数は5人台という少人数制教育を予定。教員との距離が近く、きめ細かな指導が受けられることで研究力、人間力が磨かれるとともに、自主性も身につきます。また本学では、学生が自由に使用できる研究施設・設備が充実しており、技術の修得・向上に繋がると同時に、企業との連携の場にもなっています。土木工学科においても、分野横断の学びの場を象徴する「土木工学科棟」と実践的な研究を支援するための実験棟を建設します。



新校舎(土木工学科棟(仮称))完成予想図

鉄筋コンクリート造4階建て延べ床面積約3400㎡。コンクリートの巨大な3本の柱で、床と強靱なワッフルスラブの天井を支えるユニークな建物。階段やエレベータ、設備スペース、倉庫などは柱の中に内包し、巨大な透明ガラスで区切られている中央のアトリウム越しに、中の活動を見ることができる。「融合のシンボル」をコンセプトとし、「環境との融合」「地域との融合」「理工融合から文理融合」「建築と土木の融合」「土木各分野の融合」「教員と学生との融合」「学生間の融合」を表す。1階は、多目的作業やアクティブラーニング、プレゼンテーションのできる対話/協働/発表のフロア。2階は、大教室と教室で構成される「知識学習のフロア」。3階の「知的交流のフロア」、4階の「研究創造のフロア」は、学生同士や教員の対話をもたらし開放的なワンルーム階層。教員用スペースは最小限にして、それを家具などで分節した学生の居場所が取り囲む。

本学の就職実績は、全国でも毎年上位にランクされており、2019年度における本学の実就職率(就職者数÷(卒業者-進学者))は97.0%、工科大系大学の中では全国6位(大学通信調べ)です。今春初めて卒業生を出す建築学科にも、2000社以上の企業から求人が寄せられました。新学科においても多くの企業から引き合いが来るのではないかと期待しています。また、県庁だけでなく、大学近隣の各市も防災計画に力を入れており、土木の専門職を積極的に育成・採用していきたいという意向もあることから、企業に加えて公務員への道も開かれていると思います。もちろん大学としても、それに応えるべく公務員試験対策講座などを充実させていく必要があるでしょう。

高校生へのメッセージと 静岡理科大学のこれから

数学や物理など、構造設計に不可欠な科目はしっかり勉強してきてほしいと思います。学習以外の面では、友人や仲間と積極的にコミュニケーションを図ること。土木は協働作業です。研究室への配属後に、垣根を越えて共に学ぶことも少なくありませんし、就職してからも、常にコミュニケーション力が求められます。

静岡県は「<ふじの国>の文化力を活かした地域づくり基本構想」などにみられるように、県全体で文化力を重視しています。本学にとっても文化は、決して無関係ではありません。土木工学科が新設されることで、文字通り理工系総合大学になるのを機に、本学も、優れた人材の輩出に加え、分野融合による付加価値や、本学ならではの文化を生み出し、それを発信できる大学を目指していきたいと考えています。



トピックス

来るか?大学DX

# 大学生活のすべてが オンラインで完結

## 「ネットの大学 managara」いよいよ開設

「働きながら、夢を追いながら、世界を訪れながら、趣味に没頭しながら、家業を継承しながら…。何かをしながら大学卒業が目指せる、新しい大学のカタチ」

こんなキャッチフレーズを掲げ、今春開設されるのが、ネットの大学 managara。新潟産業大学経済学部経済経営学科の通信教育課程に位置づけられ、『経済学分野』『経営学分野』の2分野を設ける。通学型の4年制大学と同様、124単位を取得すれば、卒業時に学士(経済経営学)を取得できる。『学習力養成科目』『表現力養成科目』『人間力・社会力養成科目』『人間理解科目』『社会理解科目』『国際理解科目』からなる基本教育科目と、経済学、経営学の専門教育科目を学ぶ。

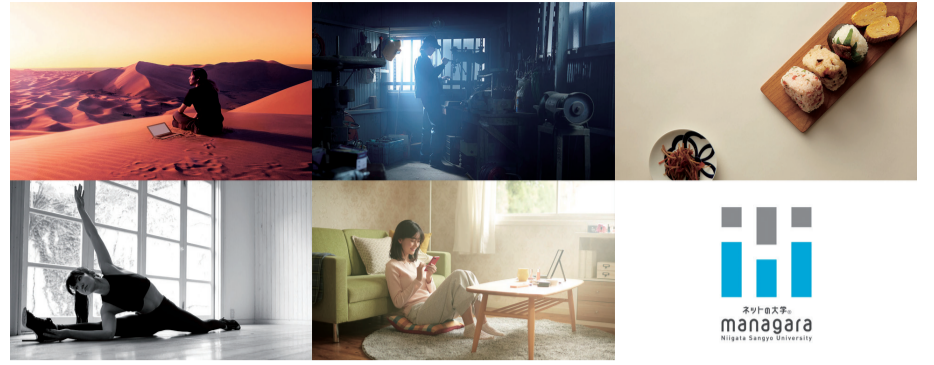
デジタル社会が急速に進み、教育分野でも文部科学省による『GIGAスクール構想』、経済産業省による『未来の教室』など、EdTech(教育:Education×テクノロジー:Technology)が推進されているが、2018年に、『学ぶ側の事情に即した学びの環境を作りたい』という思いで合致した新潟産業大学(新潟県・柏崎市)を設置する学校法人柏専学院と、総合教育サービス企業の株式会

社ウィザス(大阪府大阪市:東証JQスタンダード上場)が提携、構想すること2年で、昨秋認可された。

**授業は10分で構成。オプション講座も充実、連携先も広がる**

managaraは従来の通信教育課程と違い、キャンパスでのスクーリングが不要。仕事をしながらの履修、あるいは海外にしながらの履修も可能にした。授業のベースとなる映像講義は10分完結型で、移動などの隙間時間でも聴講しやすい。1コマは通常の大学の授業と同じ90分だが、60分を6コマに分割し、残りの30分を小テストなどにあてる。さらにslackやzoomなどのツールを使い、プレゼンやグループ学習も取り入れるとともに、小テストやレポートなども課される。教員やスタッフへの質問には、土日のをぞき原則24時間以内に対応してもらえる。イベントやサークル活動、キャリア支援にもslackやzoomが活用される。

正科のほか資格・スキル取得のためのオプション講座も充実させる。『デジタルデザイン基礎講座』『簿記完全マスター講座[3級、2級]』『3級ファイナンシャルプランナースピード合格講座』『宅建スーパー合格講座』『ITパスポート講座』の5講座【(株)ウィザス提供】



ネットの大学  
managara  
Niihata Sangyo University

がすでに用意されているが、学生のニーズに応じて随時増やしていくという。

さらに、(株)ウィザスの運営する第一学院による「オンラインカレッジ」の受講も可能。2年次を終えてから他大学の3年次への編入を目指す「大学編入コース」と、学び直し、あるいはオンライン課程だけですべて学ぶことに不安を感じる学生のための「キャリアサポートコース」の2コースだ。

また昨年末には、「地域をめぐりながら仲間と学び会う大学——さとのば大学」※と協定を締結。協定により、連携して『さつまプログラム』も開講する。まさに地域貢献をしながらの学びが実現する。このほかスポーツ選手の支援にも積極的で、先ごろは一般社団法人日本プロ野球選手会とも協定を締結、プロスポーツ引退後の選手のキャリア形成も後押しする。

学費は入学金5万円、授業料は30万円。初年度は35万円、4年間で125万円と、国立大学の半分以下に設定されている(オプション講座の料金は含まず)。経済的な理由で大学進学をあきらめざるをえない生徒にも、門戸が広がりそうだ。

managaraについて星野三喜夫新潟産業大学学長は、「最新のテクノロジーで、時間、空間、経済の制約をなくした新しい学びを提

供し、地域社会を支える人材、起業を目指す人材など、幅広く社会に貢献できる人材を育てていきたい」と開設の意気込みを語る。また(株)ウィザス代表取締役社長・生駒富男氏は、「弊社は2005年に、通信制の高校を開校したが、それがきっかけで、学びの自由度を増すことで学習意欲の高まる生徒がいることがわかった。今回はそれを大学という舞台で実証していきたい。関係者とは2年間、様々な側面から検討を重ねてきているから、内容の濃い教育を提供できると思う」と自信をのぞかせる。managara設立プロジェクトリーダーの阿野孝氏は、「経済・経営を学ぶことは将来絶対プラスになる。また世界中どこにいても学べる等、オンライン教育には柔軟性があるとともに、スクーリングがないことで、本当に忙しい日本の社会人の学び直しの垣根を下げることになるのではないかと。各自のライフスタイルにあった学びを提供するとともに、学びたいのに学べなかった人にも門戸を開いていきたい。さらに今後は、様々なサービス団体とのアライアンスも広げ、多様な学びを展開していきたい」と抱負を語る。

※(株)アソノが運営する市民大学。宮城県女川町、福島県南相馬市、島根県海士町、岡山県西粟倉村、宮崎県新富町の5市町村から地域を選んで1年ずつ巡り、暮らしながら、地域の人と一緒に地域課題の解決に向けたプロジェクトに取り組むなど、体験的に学び実践力を磨くことができる。

16歳から  
の  
大学論

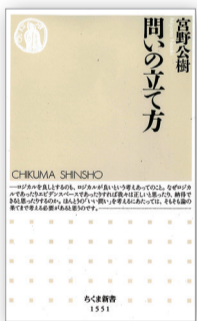
第25回

## 「問い」の哲学

京都大学  
学際融合教育研究推進センター  
准教授 宮野 公樹先生

Profile

1973年石川県生まれ。2010～14年に文部科学省研究振興局学術調査官も兼任。2011～2014年総長学事補佐。専門は学問論、大学論、政策科学。南部陽一郎研究奨励賞、日本金属学会論文賞他。著書に「研究を深める5つの問い」講談社など。



この度、私なりの問いの哲学をまとめた「問の立て方」(ちくま新書)を上梓いたしました。構想三年の完全書き下ろしです。記念して、序章の前半部分を掲載することにしました。本文にも書いていますが、具体的な場面や事例について多少触れてはいるものの、ノウハウめいた方法論や読後直ちに使える答えのようなもの、それらを書こうとした本ではありません。それならば、「問の立て方」というタイトルが間違いなのでは?と思われたかも知れませんが、「いい問いの立て方」をまっとうに考えた結果がいわゆる方法論ではなかったという結末であったゆえ、どうしても仕方のないことなりました。本書を読んでガッカリされては申し訳ないので、ノウハウや答えを求め方にはご遠慮いただき、あえていうなら、しっかりと静かに自分と向き合う、そういう時間を大事にする方に手にとって頂ければきっとこの本も報われると思います。

序章

「いい問いの立て方」を考えるにあたり、直ちに三つ、思いつくことがあります。

一つ目は、「いい」という言葉の意味。いいとは、「良い」か「善い」か。前者なら、基準なり指標なり、何かの尺度が必要となります。二つ目は、「問い」とは何か、ということ。調べれば答えがわかる問いもあれば、答えなどない問いもある。前者は「問題」や「質問」と呼ばれるものだろうし、後者は「課題」や「テーマ」、「目標」の類いとなるでしょう。三つ目は、そもそも、

いい問いの「立て方」という何からの方法論があるのか、ということ。言い換えるなら、いい問いを見つけようと思って見つけられるような問いが、果たして「いい問い」であるのか、という疑問です。

のっけから元も子もない物言いです。そもそも論から考えるような思考の仕方こそが、ほんとうの「いい問い」を持ちうる唯一の方法と考えます。目新しいハウツー的なやり方も大事ではありますが、むしろそういうやり方を生む思考のほうの方がより根本にあるのは間違いないことですから。

さらに、このまま筆を続けて、それでは、本書では「いい」を良い、「問い」を課題、と設定した上で考えていきますね

という風にはしたくありません。確かに定義や境界条件の設定により、より厳密かつ正確な議論ができるでしょう。今日においてよしとされるロジカルとはそういうことですし、昨今はエビデンスベースという言葉もよく目にします。

しかし、私はそのやり方にてほんとうのところでの「いい問い」を掴めるようになると思えません。ロジカルをよしとするのも、ロジカルが良いという考えがあつてのこと。なぜロジカルであったりエビデンスベースであったりすれば我々は正しいと思ったり、納得できると思ったりするのか。ロジカルを否定しているのではなく、ほんとうの「いい問い」を考えるにあたっては、そもそも論の果てまで考える必要があると思うのです。

では、「いい問いの立て方」をどのように考えていいのか。それは何なのか。

それは私にもわかりません。私は答えや意見を持っていません。ただ、確固たる考えはあります。どう「確固たる」かということ、本気でほんとうに「いい問い」の見つけ方を考えるなら、誰がどう考えてもそう考えるだろうという考えがあるということです。したがって、本書を

読んで頂いているみなさまといっしょに、暗闇のなか手探りで探し物を見つめるような、そういう思考の追体験ができるはず。言うなら、それが可能かどうか、私の挑戦でもあるわけです。我ながら大胆な挑戦とは思いますが、試みる以上はあらかじめ本書のスタンスをご理解いただくことに努めようと思います。

気の利いたアイデア的な何かしらコロコロとした答えめいたものを望まれる方には本書は向いてないかも知れません。課題は分割して考えなさい、こういう問題にはこういう別視点を入れてみなさい、テーマにちょっとした矛盾を含めなさい、解決策に物語性を入れなさい…といった「私(著者)は答えをもっている」というスタンスの本ではありません。そのような内容は、私からすると、どうも「こうだからこう」というようにインプットとアウトプットを直接的、物理的にとらえすぎのように思えます。そのインプットとアウトプットは、私からみれば、いずれも「結果」です。インプットも「それをインプットしよう」と考えた結果だからです。つまり、結果をどうにかしようとして結果だけを扱っているように見えるのです。なぜそのアウトプットを求めるか、なぜそのインプットなのか、といったような「問い」の背景を十分に踏まえてこそ本質的な「いい問い」に迫れると考え、本書では、それら「結果」をもたらす理由や原因にこそ着目します。そのほうが結果に与える影響は断然大きいはず。

もう一つの本書のスタンスは、「いい問い」を意味合いや場面で分けて考えていくこと。その理由は、「いい」と「問い」という言葉の多義性にあります。

これは、我々が素朴に求める「いい問い」というものは、「良い」か「善い」かにすばと二分できないものではないかと思つたためです。確かに言葉(この場合、単語という意味)が違うから意味するものも違うのは当然です。しかし、我々が日常生活において「あ、

これはいい!」と思うとき、良いと善いの違いをそれほど意識していません。もつと糞としたもの、良いと善いの混在。それが「いい」の本来の性質ではないかと思えます。

次の「問い」もまたそもそも定義しにくい性質のもので。先に書いたとおり、「問い」の言い換えとして、質問、問題、課題、目標、テーマなどいくつかあげられます。そしてそれらは明確に区別しづらい。問題がそのまま目標であったり、課題をテーマとして扱ったり、我々は日常的にそのように「問い」という言葉を使っています。(なお、問いの性質を特定させるのは、その問いの「場(形式)」となるでしょう。例えば、学術的研究会でとりあげる学問的な問い、ワークショップで対話を活発にさせる問い、新規事業開発にて世間で注目を集めるための問い。このような場に依存して問いの性質は限定され、我々はスムーズに「問い」という言葉を使っています)

以上、この二つの理由により、本書では、「いい問い」を意味合いや場面で分けて真正面から扱います。

場面ごとに違うその場その場の「いい」と、あらゆる場面でも共通して絶対的に「いい」のは、どちらのほうの方が「いい」かは、言うまでもないことですから。これはきっと抽象度の高い話になるでしょう。しかし、それに耐えなければなりません。読み手も書き手も。先に述べた「原因を扱う」とは、考えを扱うということ。考えとは目に見えないものから、抽象度が高いのは当たり前なのですが、どうも二十世紀以降この手のメタフィジカルな思考と現実の乖離がいつそう顕著になり、考えは考え、食うことは食うこと、と別々にされて久しい。本書では、この壁をなんとか乗り越えようとする理解の深化をねらいとして、この手の本では珍しく図による論の解説を試みています。

特別寄稿

あなたの眼は大丈夫？

# 教育DX時代を 生き抜くために

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、小学校から大学まで、オンライン授業が急速に普及しましたが、日常的なスマホ利用も広がる中、タブレットやディスプレイによる学習と視力との関係についても考える必要があります。ICT教育と視力について、長年「近視視力」の調査、研究を行ってこられた桃山学院大学名誉教授の高橋ひとみ先生に寄稿していただきました。



桃山学院大学名誉教授  
高橋 ひとみ 先生

Profile

高知大学教育学部卒。2007年度東京大学大学院 教育学研究科衛生学研究室私学研究員。2012年度金沢大学医薬保健研究域医学系藤原勝夫研究室私学研究員。専門は健康教育学分野で、長年近視視力をテーマにした研究に取り組む。愛媛県立新居浜高等学校出身。

## 眼からの情報は80%

マルチメディア社会と言われる今日、眼からの情報は80%以上といわれています。そんな中、政府は「GIGA (Global and Innovation Gateway for All) スクール実現推進本部」を設置し、「子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現に向けて～令和時代のスタンダードとしての1人1台端末環境」と題した文部科学大臣メッセージを发出(2019年12月19日)し、2023年度中の実現を目指していましたが、おからの新型コロナウイルスの感染拡大を受け、初等・中等教育の現場では、2020年度中にすべての児童生徒に情報端末を配備すべく準備を進めています。

教育現場でもタブレット端末を使った授業が行われるようになると、眼からの情報量は増加します。学期から情報化社会を生き抜くための情報収集能力を身につけるという利点があるものの、視覚情報を能率良く入手するためには良好な視力が、これまで以上に必要です。

## オンライン授業に必要な視力

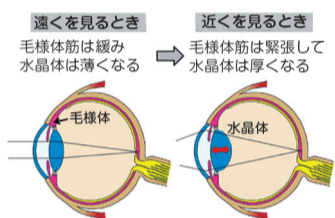
オンライン授業が行われるようになると、授業形態は「黒板中心」から「タブレット中心」へと変化します。「遠くを見る時」と「近くを見る時」の眼の仕組みは異なります。これまで、学校教育を円滑に進めるには「黒板の文字を判読できる」視力が必要として、遠視視力検査が行われてきました。しかしタブレット端末を使った授業では「タブレット画面の文字を判読する」近視視力が必要です。遠視視力検査が行われるようになってから約140年が経過しており、その意義と有効性は一応確立して

いますが、「近くを見る作業」のための視力を評価する方法としては十分ではありません。近視視力不良者の視覚情報入手の効率が懸念されます。

## 「遠くを見る視力」と「近くを見る視力」

一般的に、「遠くが見えれば近くも見える」と思われていますが、「遠くを見る」ときと「近くを見る」ときの眼の仕組みは異なります。したがって、「遠くが見えるが近くが見えにくい」人がいます。

遠くを見るときは、眼に光が平行に入ってくるので、網膜上に焦点を合わせるために、毛様体筋は緩んで水晶体を薄くします。一方、近くを見るときは、眼に光が広がって入ってくるので、毛様体筋は緊張して水晶体を分厚くします。これを眼の調節作用といいます【下図参照】。



眼の調節作用(学校保健会フリーイラスト)

## 意外に多い近視視力不良者

私たちは、「視力に問題を持つ」子どもの学習機会を保証するために、教育現場で様々な調査を実施してきました。その結果、近視視力不良者は約20%いることが分かりました。「遠視視力も近視視力も不良者」は約12%、「近視視力のみ不良者」は約8%でした。また、近視視力不良者は近業(近くを見る作業)時の学習能力が低いこと、弱度遠視の子どもの多数存在していることなどが明

らかになりました。さらに、調節機能不良のため視力が不安定で、「見えたり」「見えなかったり」する子どもの存在も確認されました。調節機能が低下すると、焦点を合わせるのが困難になり、視力低下を招きます。

オンライン授業を進めるうえで、なんらかの対策が必要な子どもの存在が明らかになったのです。

## 近視視力不良者の負担

近視視力不良者は、遠視視力不良者や健常視力者に比べて、「近くを見る作業」時には「より大きな調節力」が必要になります。「近くが見えにくい」ので、ピントを合わせようと毛様体筋が異常に緊張するからです。毛様体筋の異常緊張が続くと眼が疲れ、近くを見る作業の能力が低下します。

さらに、近視視力不良者の近業時の負担(疲労や作業能力)を明らかにするために行った脳波の実験(「近視視力不良者の近業時の注意量の定量化」)では、近視視力が強かかわる作業においては、判別の難易度によって注意の配分量が異なり、作業能力に影響を及ぼすことが示唆さ

れました。すなわち、眼前の「見えにくい文字」を判読するときには、注意力を高めて情報の有用性を判断し情報処理を行っていることが推測されました。

## 「近くが見えにくい」だけなのに!

遠視視力不良者は、学校の遠視視力検査で発見されます。眼科医院を受診し、精密検査を受けると遠視視力不良の原因が判明するので、原因に合った治療が行われます。その結果、「遠くがハッキリ見える」ようになります。しかし多くの学校では近視視力検査は行われていません。「視力の問題」なのに「能力がない・努力が足りない・根気が続かない」等と誤解され、生涯学習社会に適應できない近視視力不良者の存在が懸念されます。

今後、ICT教育の推進により、近視視力不良者の負担が増加することは必至です。遠視視力不良者ともども、「視覚情報を得る上での負担」がないよう教育環境を準備する必要があります。

以上を踏まえ、以下に、各自でできる対策、また注意すべき点などを記しました、ご参考に。

## スマホ老眼?

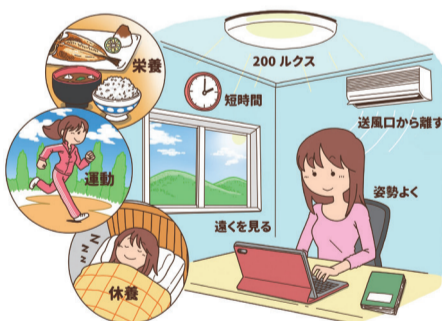
PCやスマートフォンなどの操作では、「近くに焦点を合わせる」ために毛様体筋が緊張します。この「時間」が長かったり、「頻度」が多かったり、「機器との距離」が近かったりすると、毛様体筋は異常緊張し疲労困憊します。その結果、調節力が低下し調節不良症になり、網膜上にピントを合わせるのが困難になります。すなわち、老眼(老眼)のように「近くが見づらく」なります。一般的に言われるスマホ老眼です。最近、幼児がタブレット端末に興じている姿をよく目にします。その操作技術には目を見張りますが、眼への影響を考えると望ましくありません。平面な画面にもかかわらず、物を立体的に見せるモニター画面を幼児期に頻繁に見ていると、眼球運動機能や両眼視機能が低下し、立体視機能が衰え、遠近感がなくなります。

## あなたの眼は大丈夫?

VDT※作業に従事する人に義務づけられているVDT健診の項目には、遠視視力検査と近視視力検査があります。視覚情報を能率良く入手するためには良好な遠視視力と近視視力が必要だからです。自分の遠視視力は知っていても、近視視力を知らない人は多いのではないのでしょうか。情報化が進化した生涯学習社会を生き抜くために、近視視力を確認してほしいと思います。

※Visual Display Terminals パソコンなどのモニター画面のこと

## IT機器(情報端末)の利用環境



### ●部屋

オンライン作業の部屋は自然光を取り込みながらも、直射日光が当たらない配慮をします。部屋の明るさ、机上の明るさの基準は200ルクスです。机が窓から離れている場合は人工照明で補います。この時、光源が直接眼に入らないように、また、ディスプレイに反射しないように設置します。ドライアイを予防するために、IT機器は冷暖房の送風口付近から離れた場所で使しましょう。部屋の冷暖房にも注意が必要です。ヒトが最も快適な温度は18度前後、快適な湿度は50%前後と考えられています。眼に優しい環境です。

### ●姿勢

IT機器や机・イスなどの位置や高さを調整して、適切な姿勢でオンライン作業を行ないましょう。適切な姿勢とは、背筋を伸ばし、イスに深く腰を下ろし、床に足裏がついた状態です。人にとって最も楽な姿勢であり、眼の負担が最も少ない姿勢です。眼とディスプレイとの距離は50cmくらい、キーボードや本・ノートとは30cmくらい離します。ドライアイ予防のために、ディスプレイは下向きの角度で見ないように設置します。

### ●時間

IT機器は「長時間、継続して使用しない」ことです。長時間の使用は目の調節機能を低下させ、視力不良を招きます。加えて、PCやスマートフォンなどのディスプレイから発せられるブルーライトは瞳孔反応を誘発し、眼精疲労を招きます。さらに、ブルーライトを長時間浴びたり、夜間に浴びたりすると、体内時計が狂い睡眠障害を起こすという報告もあります。途中で休憩を入れ、「遠く」と「近く」を交互に見ると、毛様体筋のストレッチになり、その緊張をほぐしてくれます。

### ●その他

「栄養」「運動」「休養」に留意した生活を送りましょう。栄養面では、偏食をしないで、ドライアイや眼精疲労を予防するために、ビタミン類やカルシウム、ミネラルを含んだ食品の摂取を心がけましょう。無理なダイエットや肥満もドライアイや眼精疲労を招きます。また、屋外での身体活動は、体力を向上させるだけでなく、3Dに眼を動かすので眼球運動や両眼視機能を高めま。さらに、体力向上により血液の循環が良くなり眼の機能も高まります。しかも適度な運動は深い睡眠を誘い、十分な休養にもなり、目の疲れもとってくれます。

## 雑賀恵子の 書評



### 人新世の「資本論」

斎藤幸平  
集英社文庫

2020年、産業革命以前より地球の平均気温は1.2度上昇した。もし2030年にプラス1.5度になるとすると、臨界点を越えて地球温暖化は暴走し、危機的な状況を迎えるといわれている。現在すでに気候変動によって、世界各地で異常気象が続き、大きな被害をもたらしていると同時に、持続的な食料生産への懸念も深刻である。一方、世界の格差は広まる一方だ。ここに来て、あちこちで目につくのは、SDGs

(持続可能な開発目標)である。2015年に国連が掲げた目標で、各国政府も大企業も推進している。意識ある人々も、自動車に乗るよりも公共機関利用に、できれば電気自動車にして、エコ袋をもち、プラスチックのゴミをなるべく出さないように生活を変えようとしている。だから、この努力が続ければ、人類は危機を回避して発展をしていく可能性はある…??

著者はのっけから、SDGsのお題目を唱えたところで、それはアリバイ作りであり、目下の危機から目を背けさせる効果しかないと断じる。

人類の経済活動が地球の地質や環境に重大な影響を与えている現在を、「人新世」と位置付ける見方がある。著者は、気候変動をもたらした経済活動の根底にあるものを帝國的な生活様式として分析する。後期資本主義の発展とそれによってもたらされる豊かさは、周辺部(低開発地域)の収奪によって生み出された

### 雑賀 恵子

京都薬科大学を経て、京都大学文学部卒業、京都大学大学院農学研究科博士課程修了。大阪産業大学他非常勤講師。著書に『空腹について』(青土社)、『エコロギス 存在と食について』(人文書院)、『快樂の効用』(ちくま新書)。大阪教育大学附属高等学校天王寺学舎出身。

ものであり、恩恵に預かる中心部(高開発地域)は、常に周辺を見出してそこに矛盾を追いやってきた。

中心部においても格差は大きい。中心/周辺は地理的な意味だけではなく、結局のところ大資本が富を独占する。強い国家はそれと協働する。それがグローバル経済の実態だ。それが環境破壊と気候危機をもたらしているのである。著者によると、人類の経済活動が全地球を覆ってしまった人新世は収奪と矛盾の転嫁を行うための外部が消滅した時代である。

だとすれば、経済的な発展を手放さない限り、言い換えれば経済的な発展を至上の善であり目的とする資本主義システムを廃棄しない限り、人類は、危機を回避できないのではないか。この文脈から、著者は、再生可能エネルギーなどに公共投資を行い、景気を刺激しつつ持続可能な緑の経済に振り向ける気候ケイ

ンズ主義の限界を指摘し、続けて、資本主義システムでの脱成長などあり得ないと論じる。

では、どこに希望を見出すか。脱成長コミュニズムだ。20世紀末崩壊していったソ連をはじめとする共産主義国家群を範としているのはもちろんない。いまさら?ではなく、いまこそ!K・マルクスを読み直し、マルクスが最後に目指したもののとしての「脱成長コミュニズム」である。コミュニズム、すなわち「コモン」。ここで、「私」「国家」、民主主義が問い直され、危機回避の軸が模索される。

著者の分析や主張は、実はさほど目新しいものというわけではない。しかし、手に取りやすい新書でベストセラーになっている。「知識」として読み飛ばし消費していくのではなく、本書を手にとった人たちが、私/たちがこの地球で生きていけるよう、思考と実践を深められるかどうか、そこに未来の希望はかかっている。

## ■ 関西学院大学大学院理工学研究科がJAXAと連携大学院協定を締結



関西学院大学大学院理工学研究科は、2020年11月30日、宇宙航空研究開発機構(JAXA)と連携大学院に関する協定を締結した。関西の大学では、私立大学で初、奈良先端科学技術大学院大学に続き2校目となる。

関西学院大学は、「電波」「赤外線」「X線」という、天文学の主要三分野を全て学べる数少ない私立大学の一つ。これまでも、理工学部物理学科(2021年4月に理学部物理・宇宙学科に名称変更)の松浦周二教授と平賀純子准教授がJAXA宇宙科学研究所(ISAS)において、衛星計画に数多く参加してきた。

また、天文観測衛星(XRISM、HiZ-GUNDAM、LiteBIRD)や、惑星探査機(はやぶさ2、DESTINY+、OKEANOS)、NASAロケット実験CIBER等の計画で、JAXAとともに研究を進めている。人的交流の面でも、現ISAS所長を招いた講演会や、兵庫県立三田祥雲館高校との協賛イベントとしてJAXAの研究者による「はやぶさ2」の講演会を開催。さらに、理工学部の学生や研究科の大学院生がISASへ出張して共同研究に関する実験に参加するなどしている。

今回の連携大学院協定は、これまで関西学院大学及びJAXAが行ってきた教育研究協力の成果を踏まえ、連携大学院方式による協力を行い、大学における教育研究活動のより一層の充実を図るとともに、JAXAの研究活動を推進させ、日本における宇宙科学及び宇宙航空技術分野の発展に寄与することが目的。本協定に基づき、2021年4月から2026年3月31日までの期間、JAXAの研究者が客員教員として大学院生の研究を指導するほか、理工学研究科の学生がJAXAに出向き、最先端の施設・設備を利用して研究指導を受ける。

## ■ 日本工業大学の学生たちが手掛けた「VR太陽の塔」11/21より公開



日本工業大学情報工学科、情報メディア工学科の学生が制作しているVRコンテンツ「甦れ!!バーチャルリアリティ 太陽の塔 Ver.3」が2020年11月21日～2021年1月24日の期間中、川崎市岡本太郎美術館とインターネット上で公開された。

日本工業大学ではこれまで、川崎市岡本太郎美術館からの依頼で1970年大阪万博の「太陽の塔」をVRミュージアム「甦れ! VR太陽の塔」として再現してきた。2018年のVer.1では塔の外観と内部を再現し、2019年のVer.2では、解説ナレーションや大阪万博当時と同じBGMを流すなどバージョンアップを行った。

今回のVer.3では情報工学科大山研究室の4年生3名が卒業研究として取り組み、鮮やかなコンピュータグラフィックスを制作した。「太陽の塔の外観」に加え、「塔内部の生命の樹」「地下空間」が再現されたVR動画は、「いのち」「ひと」「いのり」の3つの部屋を持ち、岡本太郎の壮大なイメージが具現化されている。

この作品は、岡本太郎美術館内の大型ディスプレイで映像として公開され、インターネット上の「360度動画」としても一般公開された。

## ■ 静岡理科大学、藤枝市に「イノベーション・commons」を開設



学校法人静岡理科大学グループは藤枝市との包括連携協定を推進するため、2020年10月27日、藤枝市産学官連携推進センター(BiViキャン)内に、グループ全体のサテライト拠点「学校法人静岡理科大学 藤枝イノベーション・commons」を開設した。

本拠点には、静岡理科大学を中核とするグループ各校における教育・研究の機能を強化し、産業界や地方公共団体との「イノベーション・commons(共創拠点)」でありたいという思いが込められており、グループ全体で地域産業に寄り添い、想いを具現化するための「場」としての活用を計画している。

今後については、技術相談や技術支援により、地域企業との連携強化を図ることでの「産業振興事業」、産業界のニーズに対応した社会人向け講座等による直接的な教育貢献活動を行う「人材育成事業」、グループの主催する教育事業を展開し、地域産業との交流を図り地域文化の発展に貢献する「文化振興事業」を柱に活動を展開していく。

## ■ 新潟大学がオンライン面接スペース「就活応援ルーム」開設



新潟大学は新潟市中央区笹口の駅南キャンパス「ときめいと」と、新潟市西区五十嵐の五十嵐キャンパス中央図書館に就活学生が無料で利用できるオンライン面接スペース「就活応援ルーム」を開設した。ときめいととは高等教育コンソーシアムにいがたに加盟する新潟県内の大学生、大学院生、高専生、中央図書館は新潟大学の学生が利用できる。

新潟大学によると、開設時間はときめいとが火曜日から土曜日まで午前9時から午後8時、日曜日午前9時から午後4時半。月曜日は休館となる。1人のみでの利用が可能で、事前予約が必要。

中央図書館は利用時間が平日の午前9時から午後5時まで。面接と事前準備の利用で最長120分まで利用できる。週末は休館で、事前の電話予約が必要。複数での利用は認めていない。2会場とも3月末までの期間限定での開設となるが、利用状況に応じて延長することも検討する。

新型コロナウイルスの感染拡大で企業が採用活動にオンライン面接を利用するケースが増えている。しかし、就職活動をする学生から「安定したオンライン環境の構築に費用や手間がかかる」「オンライン面接に集中できる環境の確保が困難」などの不安の声が上がっていた。

新潟大学はこれを受け、NTT東日本新潟支店や高等教育コンソーシアムにいがたの加盟校などと協議してオンライン面接スペースを整備した。

## ■ 地方大学振興に徹底的な改革が必要、検討会議が取りまとめ

地方大学の振興策を検討する政府の有識者会議が、地方を支える知の拠点として存在するために徹底的な大学改革が必要と取りまとめたことが、オンラインで開催された中央教育審議会大学審議会に報告された。このままでは2030年に定員500人程度の地方大学が160校消滅する可能性がある」と試算している。



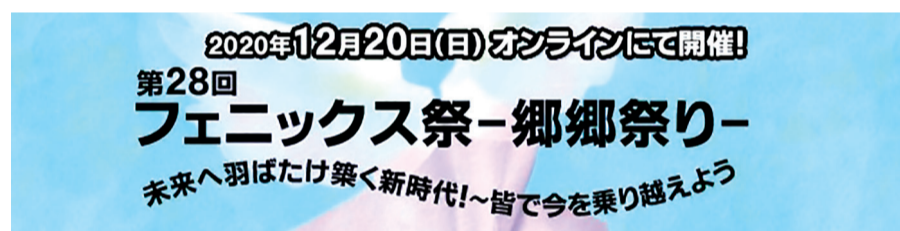
文部科学省によると、有識者会議は第2期地方創生戦略実現のため、政府が組織したもので、坂根正弘コマツ顧問、柳川範之東京大学大学院経済学研究科教授、丸山達也島根県知事ら有識者13人で構成される。2020年9月から12月にかけて計7回会合を持ち、首都圏以外に立地する地方大学の振興策を模索してきた。

有識者会議は地方大学を取り巻く環境として18歳人口の減少、グローバル化とデジタル化時代の到来、基盤経費の減少などを挙げ、地方大学の疲弊が進んでいるとした。このまま手をこまねいていると、2030年に定員500人程度の地方大学が160校消滅すると警鐘を鳴らしている。

大学を存続させ、これまで通りに地方を支える知の拠点として活動するためには、魅力を高めて学生を引き付け、新しい産業や雇用を生み出す拠点になる必要があると指摘した。その実現に向け、各地方大学は痛みを伴う改革に挑戦するなど徹底した大学改革が求められているとしている。

地方自治体や地元企業は大学が持つ力をもっと有効活用する必要があると指摘する一方、政府は大学が自由裁量で活用できる補助金などの創設について検討すべきだと提案した。

## ■ 人気ラジオ「SCHOOL OF LOCK!」とのコラボ企画も 東洋学園大学がオンライン学園祭開催



東洋学園大学は、2020年12月20日(日)11:00より、初の試みとなるオンライン学園祭「第28回東洋学園大学フェニックス祭—郷郷祭り—」を開催した。2020年度は「未来へ羽ばたけ築く新時代!~皆で今を乗り越えよう~」のスローガンのもと、特設ページで様々なコンテンツを配信。TOKYO FMの大人気ラジオ番組「SCHOOL OF LOCK!」とコラボした特別企画も開催する。

フェニックス祭は例年、学生団体のパフォーマンス発表や地域の人々との交流企画、豪華芸能人を招いてのライブやトークショーなど、様々なコンテンツで開催されてきた。2020度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、例年通りの開催形態は難しく、オンラインという新しいスタイルで実施した。

当日は5つの学生団体のパフォーマンスと運営局による企画をはじめ、オンラインならではの企画が目白押し。大学周辺の観光スポットや飲食店を紹介する「モヤモヤとお〜がく 大学周辺散歩」やファッション対決「男子改造計画」、クイズ対決「東学王」に加え、「TOGAKU よしもとお笑いライブ」「TOGAKU アイドルLIVE」なども行われた。

さらに、中高生に人気のラジオ番組、TOKYO FMの『SCHOOL OF LOCK』からさかた校長(坂田光さん/サンシャイン・吉本興業)とこもり教頭(小森隼さん/GENERATIONS from EXILE TRIBE)を迎え、『SCHOOL OF LOCK!』公開授業 from 東洋学園大学フェニックス祭—郷郷祭り—の特別配信もおこなった。

オンライン学園祭は、2020年12月20日(日)11:00~17:00にフェニックス祭特設サイトにて配信された。

## ■ 新しい留学の形 麗澤大学が海外提携校と「春季オンライン学習プログラム」開始

麗澤大学は、新型コロナウイルス感染拡大が止まらない世界情勢を鑑み、2021年春出発の海外短期研修・長期海外留学の派遣中止を余儀なくされた。そのため代替案として海外提携校と協力し、春季オンライン学習プログラムを企画。2021年2月より順次開催する。



今回の企画について、現在、南イリノイ州立大学、ポートランド州立大学、天津財経大学など海外の提携校と連携し、5つの英語プログラムと4つの中国語プログラムを用意し、順次Zoomによる説明会を行っている。ほとんどのプログラムは麗澤大学の単位認定が認められており、今後はドイツ語プログラムなども加えていく予定だという。こうしたオンラインプログラムを通じて、海外留学を希望する学生たちが希望を失わず、再開に向けて十分な準備ができるよう学習意欲を高め、前向きに大学生活を送るきっかけを提供する。

### ○英語プログラム

南イリノイ州立大学「CESL Intensive English Program」2/15~3/12(4週間)  
ポートランド州立大学「English through Sustainability」2/8~2/26(3週間)  
ポートランド州立大学「Remote Field Study」3/1~3/12(2週間)  
セブ島語学学校「QQ English 春季online研修」3/1~3/19(3週間)  
マレー州立大学「ESLプログラム」2/1~2/26(4週間)

### ○中国語プログラム

天津財経大学「中国語コース」3/1~3/26(4週間)  
西安外国語大学「普通中国語コース」3/1~3/19(3週間)  
西安外国語大学「普通中国語コース」3/1~3/26(4週間)  
西安外国語大学「短期中国語コース」3/1~3/29(4週間)  
淡江大学「中国語センター遠隔授業」3/8~3/19(2週間)

麗澤大学グローバル教育推進室は、「オンライン学習プログラムは通常の留学に比べ費用も抑えられるという魅力があります。これらが今後、留学を希望する学生の選択肢の一つとなるよう、様々なオンラインプログラムを検討しています。オンラインだからこそできることに前向きに取り組むことで、学び方の可能性を広げられればと考えています」とコメントしている。

## ■ 日本経済大学、オンライン入試に「オンライン試験監督システム」を導入

日本経済大学は、2021年度入学試験のうち、1月8日出願受付開始の「一般選抜」オンライン入試において、AIを活用した「オンライン試験監督システム」を導入した。

日本経済大学では2021年度の入学試験において、総合型選抜入試をはじめすべての入試で「来校受験」か「オンライン受験」を選択できるようにした。そのうち一般選抜のオンライン入試においては、最先端のAI技術と人の目を組み合わせた「オンライン試験監督システム」を導入し、受験生の様子を確認できる体制を敷く。

導入するオンライン試験監督システムは、株式会社旺文社と株式会社Edulabが提携し、サービス展開している「Check Point Z」。試験実施中の受験生の様子やPCの操作ログ等を全て記録し、AIと人により二重チェックすることで、受験中の様子を厳密に確認する。このシステムは英検CBTでも導入されており、九州の大学入試としては初の導入となる。

「オンライン受験」を実施する受験生は、事前に接続テスト等を行い、問題があった場合は大学が機器やWiFiルータを無料で貸し出す。試験日にはサポートデスクを設置してリアルタイムでサポートし、通信障害で受験できなかった場合は別日に追試が可能となっている。

### AI試験監督のしくみ



日本の大学・教育関連専門のニュースサイト

大学ジャーナル  
UNIVERSITY JOURNAL  
ONLINE

その他の詳しい大学関連ニュースは

大学ジャーナルオンライン

SEARCH



@univjournal



大学ジャーナルオンライン

## シリーズ 大学が地域の核になる—京都文教大学の挑戦

# オンライン企業見学会を軸に、新しい地域、企業とのつながりをコロナ禍の中の1年を振り返る

京都府南部には、優れた技術を持ち生産性も安定した優良企業が多数あります。また工業団地を有する自治体は、市町村内の企業への就業推進を図っていますが、就職活動を行う学生たちがそれらの企業に出会える仕組みが十分に整えられているわけではありません。そこで企業と学生の出会いの場づくりも、「京都文教ともいきパートナーズ」の大切な役割になっていて、これまでインターンシップや企業見学バスツアーなどを実施してきました。しかし昨年3月以降は新型コロナウイルスの感染拡大によって活動の多くに支障をきたすようになりました。企業、地域自治体とともに解決策を模索する中から生まれたのが、オンラインによる企業見学会。以下はその概要です。

2020年7月	木津高校×京都文教大学合同企業見学バスツアー企画(宇治市、城陽市、久御山町、精華町、宇治田原町)① →コロナにより中止 宇治田原町から「コロナ禍でも何かできることは出来ないだろうか?」と提案を受ける② →町と大学でオンラインによる企業見学について構想を練り始める →宇治田原町から(株)ヤマコーにオンライン見学会の協力を依頼する
2020年8月	宇治田原町と京都文教大学でZoomを使った通信実験を実施 見学会の企画に学生広報チームが参加
2020年9月	(株)ヤマコーオンライン工場見学(テストバージョン)実施③
2020年10月	(株)ヤマコー 現地見学実施④
2020年11月	京都文教ともいきパートナーズONLINE地域交流会⑤にて報告 →大学と共にオンライン企業見学会を企画する企業を募る
2020年12月～	(株)ONO plus(京都市伏見区)と京都中小企業家同友会に所属する(株)エージェンシーアシスト(久御山町)、人見建設(株)(京都市中京区)が、オンライン企業見学会第2弾の受け入れ先に決まる⑥ 学生広報チームが京都中小企業家同友会の2社を、「地域連携学生プロジェクト商店街活性化隊しあわせ工房CanVas」が(株)ONO plusを担当企業と学生とで、企画を詰める
2021年2月4日	京都中小企業家同友会に所属する(株)エージェンシーアシスト、人見建設(株)とオンライン企業見学会を実施
2021年2月5日	(株)ONO plusとオンライン企業見学会を実施

## 企業見学会トピックス

### ①木津高校×京都文教大学合同企業見学バスツアー企画(宇治市、城陽市、久御山町、精華町、宇治田原町)

#### 一歩からは高大連携による地域企業見学バスツアー

木津川市にある京都府立木津高校は、本学に進学する生徒も多く、本学との高大連携を進めています。卒業後に就職を選ぶ生徒も一定数いることから、高校生と大学生の合同企業見学会を企画しました。高校生が企業を知ることや、大学生と関わることは、進路選択の可能性を広げてくれます。初めての企画となる高校・大学合同企業見学会は、包括連携協定を結ぶ宇治市、城陽市、久御山町、精華町、そして、以前に本学が単独で行った企業見学バスツアーを受け入れてくれた宇治田原町に依頼。市町内の企業を訪問させていただくことで進めていました。



↑ Zoomで繋ぎリポーターと撮影担当が工場内を案内します。



↑ Zoomで社員と学生が対談。



↑ ヤマコー現地見学会。学生が工場を訪問し、プラダンケース制作も体験しました。



↑ ONLINE交流会に参加する学生。



↑ 人見建設訪問時の様子



↑ エージェンシーアシスト訪問時の様子

CanVasによるONO plusとの見学会の詳細は以下の通りです。

実施企業：株式会社 ONOplus

企業担当者：経営企画部 企画管理課 井上啓子さん

学生担当者：地域連携学生プロジェクト「商店街活性化隊しあわせ工房 CanVas」の学生9名(主に2年次生)

12月末から井上さんとオンラインミーティングを重ねる中で学生たちは、ONO plusが働いている人同士のつながりや関係を大切に、仲間づくりを支援している会社であることに強く惹かれたようです。そして仕事の現場を知ると共に、そうした社風を紹介していきたいと考えました。

また、2年次生が企画を担当したことから、自分たちと同じように、これから就職活動を行う学生が気軽に見学することを意識して企画しました。司会進行も学生が務め、生中継で現場

### ②宇治田原町から「コロナ禍でも何かできることはないだろうか?」と提案を受ける

#### →コロナ禍だからこそ発想されてオンライン見学会

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、3月に緊急事態宣言が発出。大学では4月からの春学期がオンライン授業となり、高校も休校措置がとられるなど、直接企業を訪れる見学会の実施は難しい状況となりました。しかし準備していた見学会をすべて中止にしてしまうのはもったいない、受け入れ側の宇治田原町も同じ思いでした。そこで、バスツアーの訪問先の一つで、ともいきパートナー企業でもある、プラスティックダンボール(プラダン)の製造・販売を行う株式会社 ヤマコー(以下:ヤマコー)に協力を仰ぎ、オンラインによる学生と社員との交流や、働く現場を見学するという新しい企画が始まりました。

### ③(株)ヤマコーオンライン工場見学(テストバージョン)と現地見学会実施

「京都文教ともいきパートナーズ」は、大学の理念「ともいき(共生)」に賛同する企業や団体に、インターンシップなど、学生の「学び」や「成長」に関わる取組に協力してもらうとともに、大学からはそのリソースを活かした交流会や、メンタルヘルスセミナーなどを提供するという、お互いを高め合うパートナーシップ事業です。その一環として、コロナ禍のなかで試験的に実施した学生と企業を繋ぐ新しい取組「オンライン企業見学会」は、パートナーズ企業との交流会で話題となり、新たな展開につながっています。詳細を以下にご紹介します。

## トバージョン)と現地見学会実施

### ——企業見学の可能性が広がるオンライン工場見学会と現地見学会

オンライン工場見学には、web会議システム「Zoom」を使いました。事前にヤマコーとは、何を伝えるか、どこを撮影するかなどを打合わせ、宇治田原町とは、Zoomの機能の確認や通信テストを重ねました。

9月11日、テストケースとして、ヤマコーオンライン工場見学会を実施しました。当日のプログラムは、①工場見学、②社員との交流、③質疑応答の3つ。オンラインでの企業見学会を学生はどう感じるのか?それを検証するため、オープンキャンパスなど、入試広報を手がけるプロジェクトチーム「学生広報チーム」の学生に協力を依頼し、工場見学の視聴とオンラインによるヤマコーの社員との交流を体験してもらいました。工場見学では、ヤマコー社員がリポーターを務め、本学職員がZoomに接続したスマートフォンで中継しました。リポーターはZoomで繋がったスマホを手に持ち、カメラはオフ、音声はオンに設定。そして本学職員のスマホは音声オフ、カメラのみ起動にし、映像は撮影者、音声はリポーターのスマホから届くようにしました。こうすることで、撮影者とリポーターが離れていても、音声は聞こえやすく、機械により近いところからの映像中継も可能になりました。

そして翌10月20日、オンライン説明会に参加した学生たちは、宇治田原町にあるヤマコーの本社工場を訪問します。オンラインでの見学会と、現地を訪れての見学の両方を体験することで、オンラインの可能性と、現地を訪れることで得られないことを明確にできます。現地見学では、1か月前にオンラインで見た工場内を実際に歩いて見学し、その後、ヤマコーが手がけるプラダンケースの制作を体験、社員と対話も行いました。

### ④京都文教ともいきパートナーズONLINE地域交流会にて報告

11月4日(水)、「コロナ禍における学生と企業と地域の接し方」をテーマに、オンラインで交流会を実施。参加者は、パートナーズに加わる企業や経済団体、行政、そして本学の教職員、

学生など約50名。まずは、9月に初めて実施した「オンライン工場見学」について、企画した宇治田原町、ヤマコー、そして、参加した学生広報チームがそれぞれの立場から事例報告をしました。後半は、それぞれの事例報告を受けてグループディスカッションを行い、課題の共有や現状を打破するためのアイデアを交換し合いました。

ヤマコーでのオンライン見学会では、プラダンの製造場の内部にカメラを入れ、実際には近づけないエリアや細かな作業工程まで見せてもらうことができましたが、これは、オンライン(撮影)ならではの効果と言えます。一方、オンラインと対面のどちらも体験した学生からは、「現地で社員さんと直接言葉を交わすことで企業の魅力や空気を肌で感じることができた。」「事前にオンラインで会社の概要や工場での作業などを知って訪問すると、企業に対する理解がより深まる」等の声が聞かれました。

### ⑤(株)ONO plus(京都市伏見区)と京都中小企業家同友会に所属する(株)エージェンシーアシスト(久御山町)、人見建設(株)(京都市中京区)が、オンライン企業見学会第2弾の受け入れ先に決まる

#### ——学生目線でのオンライン企業見学会

ONLINE交流会に参加してくれた企業の皆さんからの反応は上々で、コロナ禍での最善の方法を模索した企業見学会についても高い評価が得られました。なかでも、今回も参加し、ヤマコーとも親しいフィルム加工企業の株式会社ONO plus(以下:ONO plus)と、株式会社エージェンシーアシスト(以下:エージェンシーアシスト)が、オンライン見学会に強い関心を示してくれました。そこで両社と協議を重ね、第2弾として、この2社に加えて京都中小企業家同友会にも協力してもらい人見建設 株式会社(以下:人見建設)にも参画してもらうことになりました。企画当初から学生にも参加を呼びかけ、ONO plusは地域連携学生プロジェクト「商店街活性化隊しあわせ工房 CanVas」(以下:CanVas)が、エージェンシーアシストと人見建設は学生広報チームが、それぞれ担当することになり、2月4日、5日に見学会を実施しました。



↑ ONO plus本社でのインタビューの様子

(八幡工場)のリポーターとやり取りするなど、テレビ番組風の演出にするとともに、事前の打ち合わせやHPから得た情報を元に、学生として聞きたいことをインタビューする対談企画も盛りこむなど、学生目線の見学会となりました。

### 【まとめ】

これまで、テストケース1件、学生による企画3件、計4つのオンライン企業見学会を行ってきました。企画に携わった学生たちは、学外の社会人と一緒に見学会を創り上げていくなかで、メー

プログラム	時間	内容
業概要説明	5分	井上さんより、業務内容や社歴について説明。
本社訪問動画の上映	5分	事前にCanVasメンバーが本社を訪れ、社屋や本社機能についてインタビューを行い、その様子をまとめた映像を上映。
八幡工場見学	2分	八幡市にあるYawata-Factoryの様子をオンラインで伝えました。井上さんの案内で、工場内の様子や作業風景も。
社員さん(2名)×CanVas対談①	15分	入社1年目の社員と、そのメンターであるベテラン社員のお2人との対談。メンター制やその効果について伺いました。
社員さん(2名)×CanVas対談②	15分	同じ部署に所属する先輩社員と後輩社員のお2人との対談。お互いの役割分担や後輩への指示の伝え方などを聞きました。
質疑応答	5分	

ルの書き方など細かいところから、スケジュールの立て方、仕事の進め方まで多くのことを学びました。この経験は、将来の大きな財産となるはずです。また大学においても、会議システムの活用方法や企画の立ち上げから実施までの進め方など、オンラインによる企業見学会の企画・運

営の手法が確立されつつあるようです。今後は、実施することに加えて、それをどのように発信していくか、活用していくかが課題になると思われますが、引き続き就職活動を行う学生や、地元企業や自治体といった地域のニーズを理解し、それに応えられるよう展開していきたいと考えています。